

# 花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。  
産経新聞を応援しています。

江藤拓氏、WILL誌上でも赤松口蹄疫事件を糾弾！

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/1624942/>)

最期に最高にうまいえさを食べさせてやる

泣きながら体や乳房を拭き頭を撫でてやる。そして次々と殺されていく...

<http://twitter.com/#!/hanausagifan>

(2010/05/27) 1/2

「牛は大人しい動物ですから、素直に注射を受け、どさっと倒れる。農家にとって牛や豚は産業動物以上の存在で、子を生んでくれ、乳を出して自分たちを食べさせてくれる家族のような存在です。何も生み出さないペットでさえ、目の前で薬殺されるとなれば耐え難いものがあるでしょう。大事に育てた家族を殺さなければならないのですから、その心情は察するに余りあります。だからこそ、農家の人は最期に最高にうまいえさを食べさせてやって、泣きながら体や乳房を拭いてやって、頭を撫でてやる。そして次々と殺されていくのを見るのです。」

WILL7月号が発売されました。総力特集「鳩山政権は国家に災厄だ！」をテーマに、あの安倍晋三氏らの創生日本による座談会、渡部昭一氏と高市早苗氏の対談ほか、本号も多彩な記事が収録されています。詳しくは表紙画像からリンクしたWILL7月号目次のページをご覧ください。



上記の文章は「口蹄疫、見殺しにした赤松農水相」と題した自民党の江藤拓氏の投稿(10ページ)の一部分です。現場に張り付いた人でないと描写できない生々しい光景ですね。貼り付けた動画にも見られるとおり、江藤議員は口蹄疫発生直後から本当によく頑張っていると思います。このエントリーでは、この論文の最後の二章を以下に収録してご紹介いたします。詳細は是非ご購入の上でご覧下さい。



やはり親父さんの血を引いているのでしょうか、赤松口蹄疫事件では本当に頑張っています。

## 行き過ぎた政治主導

二〇〇〇年に宮崎県と北海道で口蹄疫が発生した当時、あまり言いたくはありませんが私の父(江藤隆美)が自民党の総合農政調査会の最高顧問であり、畜産防疫対策本部長を務めました。いろいろ当時は批判もあつたかもしれませんが、大蔵省(当時)の許可も農林省の許可も得ずに「百億出す」と翌日に決めたのです。

「百億円用意する。だから金の心配をせずに、思い切ってやってくれ」

私は当時秘書をしていましたが、「国がそこまでやってくれるなら、現場も精一杯やろう」と現場が奮い立ちました。結局、被害は七百頭あまりで済み、早期に終息しました。しかし、今回はすでに百倍以上の被害にまで及んでいます。

問題が発生した時、まず第一に国がどういう姿勢を示すのか。初動が大事といわれるのは、対策の中身もさることながら、その姿勢が問われるのです。

私は連休中、地元にいながら自民党の野村哲郎先生(参院・鹿児島選挙区)、森山裕先生(衆院・鹿児島五区)、小里泰弘先生(衆院・鹿児島四区)、古川禎久先生(衆院・宮崎三区)らと連絡をとりながら、役人にも対策をお願いしました。

しかし、役人は「政務三役のご承認を得なければ、我々の判断ではどうにもなりません」というばかりでした。行き過ぎた、誤った政治主導が広まっている証拠です。

本当の政治主導とはそういうものではない。父はよく言っていました、「現場はどんどんやれ、ケツは俺たちが拭いてやる。後で問題になったら俺たちが責任をとってやるから、勇気を持って思い切ってやれ」と。それこそが真の政治主導ではないでしょうか。

## 農林大臣の首が飛ぶ

口蹄疫問題について、メディアは抑制的です。取り上げることがあっても、まるで赤松大臣がよくやっているかのような報道でした。もし自民党が与党でこのような体たらくをさせば、対応の遅さをこれでもかと責められ、農水大臣の首などどっくに飛んでいるでしょう。

問題発生当初は、たしかにわれわれも宮崎の方々も、風評被害を恐れて抑制的な報道であって欲しいと思っていたことは事実です。しかし事ここに至っては、そんなことを言っている場合ではない。事の重大さを報道してほしい。

地元の人たちは自ら発信し始めています。NHKやTBSに電話して「なぜ取材に来ないんだ」と訴えたり、自ら撮影した写真や動画をネット上にアップし、窮状を少しでも多くの人にわかってもらって、少しでも広く支援の輪が広がるようにと願っています。

私があれば心をこめて、直に農家の苦しみを訴えても赤松大臣の心は全く動きませんでした。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画  
☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！☆  
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」  
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに…」

わからない事は  
調べましょう!

検索

izaブログ最高ランキング  
【全体】2位 【政治】1位  
(2011年12月30日)

\*花うさぎ氏は2011年12月27日永眠されました。日本を想う数多くのエントリーを遺して下さった事に心から感謝致します。

# 花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。  
産経新聞を応援しています。

江藤拓氏、WILL誌上でも赤松口蹄疫事件を糾弾！

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/1624942/>)

最期に最高にうまいえさを食べさせてやる

泣きながら体や乳房を拭き頭を撫でてやる。そして次々と殺されていく...

<http://twitter.com/#!/hanausagifan>

(2010/05/27) 2/2

必見です、やまと新聞社GJ！重大質問をやじり倒す民主党議員。

いつもは満員の二階記者席がガラガラ！本当に怒りを覚えます！



5月20日 衆議院本会議にて江藤拓議員が宮崎に置ける口蹄疫被害について政府の対策を質問。外遊していた赤松農相の責任を追究した。本会議場はヤジと声援で騒然となり、与えられた質問時間を大幅にオーバー。時間オーバーを理由に質問を切り上げさせようとする与党。しかし高木毅自民党議院運営委員会理事のがんばりで最後まで質問が続けられた。最後には江藤議員と高木議員が握手する場面も。本会議場には江藤議員の質問が始まる直前迄は席についていた鳩山総理がなぜか退出。本会議場2階のマスコミ記者席もガラガラだった。なぜだ。口蹄疫問題は日本の酪農に関わる問題だ。そして宮崎は今本当に毎日つらい日々を送っている。江藤議員の元に寄せられた多くの地元の声を記事で紹介いたします。是非ご覧下さい。

赤松農相だけではない。民主党議員の正体。どうしてこのようなことになるのか。同じ日本人なら宮崎の苦悩を助け合いたいと思うのが当たり前だ。ものすごいヤジで江藤議員の質問を遮ろうとする民主党。この尋常ではないヤジ。国民は民主党に恐怖を感じるだろう。この人たちは自分の意見に従わない人にはなんでもするんだ。罵声を浴びせ妨害する。これが民主党議員、民主党政治の真実だ。宮崎県の皆さん、国民の皆さん。この声を聞いてください。やまと新聞社はたとえ本会議場から追い出されようと、日の丸を胸に真実を報道していきます。三脚を立てての撮影が出来ない状況でした、手ブレにより見にくいと思いますがご容赦ください。これが真実です。是非ご覧下さい。

やまと新聞社 <http://www.yamatopress.com>

やまと新聞社 <http://www.yamatopress.com>

五月十四日の記者会見でも、赤松大臣は記者から「新たな対応策はありますか」と聞かれ、こう答えています。「残念ながら、宮崎県の中で出たのは『クロ』でしたけれども、それも、今まで出ている地域ということなものですから、基本のところは変えておりません。

現地の要望を受けて、対応を変えたことはありますし、それから、埋却場所等についても、なくて困った、困ったというのは、現地との話し合いで、ほぼ、これも解決がいつか来たということで、とりあえず、今、どうしてもこれをやらないと困るとか、新たな対策が、今、これが必要だということはないと思っておりますので、とりあえずは、今、決めた方向で、きちっとそれをやり切っていくということにしようかなと。

また、県外に、そういうのが出たとか、全く違う状況になれば、これはまた対策本部をつかって、新たな対応をどうするかということも、臨機応変に、これはやりたいと思いますが、今日時点のところでは、特に、今、新たな施策を新規に打ち出すということは、考えておりません」

大臣に限らず、政治家というものは国民の痛みを自分の痛みとして受け止め、ともに苦しみ、ともに悩み、ともに葛藤し、自分の権限で問題解決に関してできる最大のことをしようと努力すべきです。それが政治家の資質というものです。(WILL7月号 P74-P75)

有難うございました。花うさぎ通夜告別式(2012/01/02)

<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2556660/>

父が遠くへ行って初めて、その生き方を少しは様々な角度から眺めることができるような気が致しております。

以前父とこんな話をしたことがあります。  
「尖閣問題が起こっても、震災が起こっても、民主党がこれだけデタラメやっても国民は、**大手メディア、新聞の情報でしか判断できない。この国はもうだめだろ...**」

父は私の名をよびこう言いました。

「**悲観する必要なんて全くないんだよ。**

戦後の歴史で今ほど保守の活動が広がっている時代はない。それはネットの力を借りて、**この国を憂いている人たちが思いを馳せ行動を開始し、真実の情報を発信し、多くの人が気づき初めているからだ。**

だからお前は、家族を大切に、この国を好きになって毎日をごせばそれでいい。  
**マスコミに騙されず、自立した人生を送って、日本を好きになって、勇気をもって活動しているみなさんを応援してあげて。」**

その話しぶりは、叱るでもなく、励ますでもなく、諭すでもなく、嬉しそうで穏やかな口調でした。

そのときはうまいこと言うなくらいにしか受け止めていませんでしたが、今は父の穏やかな人柄と凜としたぶれない生き方、人としての器の大きさなど自分との違いをかんじずにはられません。

これからも、皆様からお寄せいただきましたご厚情と、父の思い出を大切に参りたいと存じております。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画

☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きな人は必見！☆  
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」  
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は  
調べましょう！

検索

izaブログ最高ランキング  
【全体】2位 【政治】1位  
(2011年12月30日)

\*花うさぎ氏は2011年12月27日永眠されました。日本を想う数多くのエントリーを遺して下さった事に心から感謝致します。